

07

04月2018

【連載】母と私たちの、初めての在宅ケア

「肺がん治療はしない」と決める～連載③

文責: がん・バツテン・元気隊 運営委員  
大山 薫

全5ページ

## 母が、肺がん治療を選ばなかった理由

昨年9月から肺炎治療のため入院治療をしていましたが、12月初旬、「肺がん」が見つかり、一時退院して、12月13日に別の病院でPET検査を受けました。

そして検査の翌日、かかりつけ医の、にのさかクリニック・二ノ坂院長を訪ねて今後の治療のことなどを相談しました。先生からは詳しい自分の状況、抗がん剤治療をする際の副作用などを聞き、自分の考えをまとめ、自分の希望を話しました。

9月から2ヶ月以上の治療や、リハビリの入院生活で疲れ、早く自宅生活に戻りたい。抗がん剤治療で予定される入院生活を考えると、せつかく寝たきを回避できた体調が、また悪くなるのではないかという不安。

「抗がん剤治療をせず、二ノ坂先生の診察を受けながら出来るだけ自宅で過ごしたい」という母の話に、先生も、母の年齢や体調、肺炎、肺がんの状況などを総合的に考えると、抗がん剤治療をしないほうが良いと思う、と言われました。

12月18日に、肺がんの検査を受けた病院で詳しい検査結果を聞きました。医師によると、手術や放射線は無理で、副作用の少ない分子標的薬による治療の適応もないとのこと。できる



父の見守る中で、二ノ坂先生の診察を受ける母

のは標準的抗がん剤治療で、初回は約2～3週間の入院。その後、4クール程継続予定で、様子をみながら通院も可能とのことでした。

副作用の少ない分子標的薬による、治療の可能性があるかもと、期待はしていましたが、全く適応が無かったため、母もきっぱりと抗がん剤治療はせずに自宅で過ごす事を希望しました。

### 抗がん剤治療を選択しなかった母の気持

「昨年3月に、にのさかクリニックを受診し始めてから、今も変わらず丁寧に手抜きをしない診察をし、話を良く聞いてくださる二ノ坂先生を、信頼しています。肺がんと診断されてから、病状や治療について、自分で判断できる知識も自信も無いので、信頼できる二ノ坂先生の判断やアドバイスに、従おうと思いました。

私が、「あと5年は頑張りたい」と言うと、先生は「それは難しいかもね」と隠さずに答えてくれました。そして、「抗がん剤治療をしない方が長生きできるよ」と励まされた事が嬉しくて、せめて、あと3年位は頑張りたいと改めて思いました。」

## 訪問看護と訪問リハビリ「居宅サービス」を受けることに

抗がん剤治療の入院はしないで、自宅での生活を選択したので、そのことをすぐにケアマネさんに報告し、状況を相談したところ、「訪問看護」による看護師に、今の母の容態を見てもらった方がいいと言われ、12月22日に「居宅サービス」を契約しました。

### ◆「居宅サービス」(介護予防)訪問看護

訪問看護は、利用者の居宅(自宅)において、看護師、その他省令で定める者が療養上の世話、又は必要な診療の補助を行うサービス。

又利用者に対し、機能障害改善のためのリハビリテーションを行う。

年末でしたが、さっそく訪問看護師が来てくださり、今後のリハビリや、シャワー入浴等の予定を組みました。

前もって福祉用具の業者に手配をお願いしていたので、年内に手すり設置工事をしてもらうことが出来、あつと言う間に、なんとか自立生活が出来る環境が整い、両親ともに、安心してお正月を迎えることが出来ました。

## 冬の在宅療養を快適にする福祉用具

### ① 足湯バケツ (自費で約1,400円)

足の悪い母には、今年の冬は特に寒く辛いようでした。リビングの椅子に座っている



時に、バケツ2ヶを使って足湯を試みましたが、普通のバケツでは、膝の曲がりが悪い母には高さが辛く、足の出し入れが大変でした。

訪問看護師さんのアドバイスで、福祉用具のカタログから購入した足湯専用バケツは、とても使いやすく、寒さの続く冬には、母に足湯をしてあげました。

#### 母の感想

「マンションの1階の床はとても冷たく、暖房を入れていても足が冷えて辛かったので、足湯は本当に気持ちよかった。」

### ② 加湿器 (自費で約17,000円) インターネットで購入

エアコンをつけていても深夜になると気温が下がります。冷たい空気で咳がひどくな



り、痰の出る量が増え、睡眠が妨げられ辛いとのことでした。マスクをすると、咳と痰が出た時に素早くティッシュで拭けないので都合が悪い。何か良い方法は無いか調べ、「加湿・空気清浄機」を購入し、寝室に設置しました。

加湿器、空気清浄機と別々の製品もありましたが、加湿と空気清浄、両方の機能が搭載しており、金額的にもお手ごろだったため、「加湿・空気清浄機」を選びました。

## 母の感想

「設置した夜から、違いを感じた。湿度が高いお陰で、冷たい空気が和らぎ、咳の出る回数が減ったので、大分楽になった」

### ③ 自宅浴室での入浴用の福祉用具

- ◆ 手すり2本 カタログ定価55,000円 介護保険で1割負担
- ◆ バスボード カタログ定価23,000円 介護保険で1割負担
- ◆ 浴槽台 カタログ定価16,000円 介護保険で1割負担
- ◆ すべり止めマット 自費で約5,000円



手前の赤い**滑り止めマット**は、風呂場に入る時の滑り止めに使い、次に浴槽の下に沈めても使います。

赤い手すりが付いた風呂ふたの様な形の「**バスボード**」に腰掛けて、白い「**浴槽台**」に足を置き、腰掛けて足を横に上げるような形で浴槽に入ります。

足置きに使った「**浴槽台**」を、今度は浴槽の中に沈め、そこに座って湯に浸かります。浸かれるのは胸の下くらいまでですが、背中「**バスボード**」が背もたれになり、足元は滑り止めマットで安定し、安心してゆっくり入ることができています。

入院する前は、ひざが悪く足が冷えると言う母を、よく銭湯に連れて行きました。母は温泉が好きで、一緒に行くと、何度も湯船に浸かり、長湯で心配するほどでした。ひざが悪くなってからは、膝の曲がりが悪いので、自宅の浴槽に浸かることが難しくなり、ここ数年、自宅ではシャワーのみでした。

退院後も、訪問看護師さんの介助で、週に1度のシャワーでした。

寒い中、温かいお風呂に入れたら、癒されるだろうと思い、一度私が母を何とかお風呂に入れてみましたが、上手くいきませんでした。そこで、どうにかして湯船に入れる方法は無いのかと訪問看護師さんに相談し、福祉用具の購入と手すりを設置しました。

その際も、たくさんある福祉用具の中から、母にとって一番安心して使える物をアドバイスをして頂きました。

おかげで、足の悪い母でも安心してお風呂に入れる様になりました。

### 母の感想

「入院してからずっとお風呂に入れず、体がきつい、お風呂に入ってゆっくり湯船に浸かりたいと、思っていました。私の状態や、動きに合った福祉用具を設置してくれたので、転倒の不安も無くなり、安心してお風呂に入れる様になりました。

湯船の中に入れた介護椅子に座って、浸かったまま体と頭を洗ってもらい、そのままお湯を流してもらいます。それが、外国の女優さんの様で、とても気持ちが良いです。

今では週に1度のお風呂がとても楽しみです。」

(つづく)



福岡がん患者団体ネットワーク  
がん・バッテン・元気隊

電話 090-9591-7469 (10:00~22:00)

FAX 092-873-2372

E-mail <http://ganbatten.info/contact.html>